

たけうち 忍 議員 (公明)



防災対策について

地震での建物被害が想定される品川区で新型コロナウイルス等に対応するため、車中泊等を視野に学校の校庭等を活用した避難所確保の検討を。

校庭等については、災害時に医療救護所等としての活用も考えており、避難スペースとしての活用は被災状況等に応じて判断していく。

コロナ禍での経済支援について

都議会公明党の推進で可決成立した都の中小事業者への支援策では、国の月次支援金への上乗せ等が可能となった。今回の都の支援策への上乗せや国や都の給付金未受給事業者への区独自の支援金支給を。

区内経済団体との意見交換で現況等を聞き、調査研究していく。

ワクチン接種済証持参の客に割引等を実施するための財政的な支援

等、飲食店が進んで感染対策を継続強化できるよう、インセンティブの付与となる支援をしては。

接種を完了した方に特典を提供して接種率向上と地域経済活性化につながる取組も見られており、他区の動向も見ながら効果的な支援等について引き続き検討していく。

介護者・ケアラー支援について

コロナ禍で集えなくても、介護者が同じ境遇の方の体験を通じ励みとなり自らの体験を発信できる場として、広報しながらでの定期的な特集ページの掲載等を提案する。

対面によらない形式等での体験の発信や情報共有を検討する。

見守りや介護で遠方の親元に通う遠距離介護者への支援は、喫緊の課題である。支援策の現状は。

ご家族からの相談をいただいた際は丁寧にお話を伺って状況を把握し、適切な支援につないでいる。

子ども達を一人も残さず救うとの強い思いで、国の動きも踏まえた更なるきめ細やかなヤングケアラー支援策を構築するよう求める。

国の報告書で指摘されている早期発見等のこれから取り組むべき施策について、区としても検討し組織を連携しつつ対応していきたい。

鈴木 博 議員 (自・無)



品川区の感染症対策について

新型コロナウイルスワクチンの取扱いに対する国の度々の変更、区としてどのように対応したのか。

品川区医師会、在原医師会等と協議を重ね、確実かつ安全に接種ができるよう調整してきた。

ワクチンの広報活動に関して特に注意していることは。

状況が日々変わる中で最新の情報が行き渡るよう提供することだ。

HPVワクチンは優れた発がん予防効果等が報告されている。HPVワクチン接種漏れの人々に対する追加接種の費用助成を要望する。

国の方向性の確認等動向を見据えつつ、費用の助成については今後の検討課題と考えている。

が、区としての対策は。まだ抗体検査を受けていない方への個別勧奨通知を1回実施したが、今年8月に再度実施予定である。また、しながわ産業ニューズ等を通じ、積極的に周知していく。

品川区の子育て支援施策について

コロナ流行下で保育を行うに当たって、特に気をつけている点は。

感染症対策に注意を払いつつ、目の表情や声のトーンなどに気をつけて、より伝わるような工夫をしているところである。

品川区の教育について

ワクチンの接種が進むことにより、教育現場はどの点が変わるか。コロナ以前の教育活動が再現でき、あわせてタブレットを活用した授業づくり等特色ある教育が推進できるものと期待している。

ワイドショーでは事実誤認の発言が多く、風評被害の要因となっている。放送内容をファクトに基づき検証する授業は、風評被害の最善の対策と考えるが、区の見解は。

様々なメディアの記事や意見に着目し協議することは、情報モラルを高めるうえで効果的であるため、今後市民科や情報教育等の教員研修の中で取り上げていく。

木村 けんご 議員 (しな無)



新型コロナウイルスの対策について

国内での感染者は、まだまだ拡大しつつある。感染者数や死者数は欧米等と比較して幸いにも低く抑えられ、国際的には日本の対策が比較的よいのではと認識されているそうだが、区から見たこれまでの国の対応は。

マスクの着用など国民の取組や、保健所の積極的疫学調査、医療機関での検査拡充や患者の受入れなどに努めてきた結果、我が国の感染は現状にとどまっているものと考えている。

無電柱化の取り組みについて

本区の無電柱化の現状は、区道約329キロ中約233キロ、約7%の無電柱化を實踐中とのことだが、多額の費用とその必然理由、今後のタ

ムスケジュールは。電線や電柱が道路上からなくなることで防災力の向上や安全で円滑な交通の確保、良好な都市景観の形成につながる重要な事業だと考える。国や都の動向を捉え、まずは今後10年間の無電柱化を計画的に推進していく。

レジ袋の有料化について レジ袋をもらわないのではなく、レジ袋を持って生活ごみを廃棄する方法と、再利用することでレジ袋の消費量を減らすことが意識され、地球環境を守る心を育てることが大事だ。どのように区民の皆さんに納得していただくのか。

男性産休の義務化について

出産後の男性産休は、精神的、身体的に負担の多い女性のサポートや産後鬱の防止になると言われているが、区の考えは。

男女ともに仕事と育児等を両立できる環境を整備することで、子育てしやすい社会の形成につながるものと認識している。

フードデリバリー配達員の注文待ちマナー問題と多文化共生について

注文待ちのフードデリバリー配達員と近隣住民のトラブルについて、区の対応状況は。

近隣住民からの通報で生活安全パトロール隊が指導をしている。警察署にも通報があるので、引き続き警察署と連携し、対応していく。

品川区にゆかりのある声優や声優除菌について

有効性、安全性が未確立な「空間除菌」について 広報しながわ等で、空間除菌について政府見解等の周知を図るべきと考えるが、区の見解は。

空間除菌には効果がなく、また健康被害もあり得ることを、広報しながら、区ホームページ等で周知していく。

食品デリバリー配達員の注文待ちマナー問題と多文化共生について

注文待ちのフードデリバリー配達員と近隣住民のトラブルについて、区の対応状況は。

近隣住民からの通報で生活安全パトロール隊が指導をしている。警察署にも通報があるので、引き続き警察署と連携し、対応していく。

品川区にゆかりのある声優や声優除菌について

有効性、安全性が未確立な「空間除菌」について 広報しながわ等で、空間除菌について政府見解等の周知を図るべきと考えるが、区の見解は。

空間除菌には効果がなく、また健康被害もあり得ることを、広報しながら、区ホームページ等で周知していく。

品川区の子育て支援施策について

コロナ流行下で保育を行うに当たって、特に気をつけている点は。

感染症対策に注意を払いつつ、目の表情や声のトーンなどに気をつけて、より伝わるような工夫をしているところである。

松本ときひろ 議員 (無所属)



品川区の感染症対策について

新型コロナウイルスワクチンの取扱いに対する国の度々の変更、区としてどのように対応したのか。

品川区医師会、在原医師会等と協議を重ね、確実かつ安全に接種ができるよう調整してきた。

ワクチンの広報活動に関して特に注意していることは。

状況が日々変わる中で最新の情報が行き渡るよう提供することだ。

HPVワクチンは優れた発がん予防効果等が報告されている。HPVワクチン接種漏れの人々に対する追加接種の費用助成を要望する。

国の方向性の確認等動向を見据えつつ、費用の助成については今後の検討課題と考えている。

の卵の音源による広報について 区の音声を使う広報に、区にゆかりのある声優の音源を活用することを提案する。

品川区の子育て支援施策について

コロナ流行下で保育を行うに当たって、特に気をつけている点は。

感染症対策に注意を払いつつ、目の表情や声のトーンなどに気をつけて、より伝わるような工夫をしているところである。

品川区の教育について

ワクチンの接種が進むことにより、教育現場はどの点が変わるか。コロナ以前の教育活動が再現でき、あわせてタブレットを活用した授業づくり等特色ある教育が推進できるものと期待している。

ワイドショーでは事実誤認の発言が多く、風評被害の要因となっている。放送内容をファクトに基づき検証する授業は、風評被害の最善の対策と考えるが、区の見解は。

様々なメディアの記事や意見に着目し協議することは、情報モラルを高めるうえで効果的であるため、今後市民科や情報教育等の教員研修の中で取り上げていく。

品川区の子育て支援施策について

コロナ流行下で保育を行うに当たって、特に気をつけている点は。

感染症対策に注意を払いつつ、目の表情や声のトーンなどに気をつけて、より伝わるような工夫をしているところである。

品川区の教育について

ワクチンの接種が進むことにより、教育現場はどの点が変わるか。コロナ以前の教育活動が再現でき、あわせてタブレットを活用した授業づくり等特色ある教育が推進できるものと期待している。

ワイドショーでは事実誤認の発言が多く、風評被害の要因となっている。放送内容をファクトに基づき検証する授業は、風評被害の最善の対策と考えるが、区の見解は。

様々なメディアの記事や意見に着目し協議することは、情報モラルを高めるうえで効果的であるため、今後市民科や情報教育等の教員研修の中で取り上げていく。

現時点では考えていない。